

今回の

大工 廣 頼 一 城 外 四 名
木 枕 工 藤 茂 三 郎 外 一 名
左 官 河 津 熊 五 郎 外 二 名

工事監督 出 納 邦 弘
大工棟梁 三 浦 嘉 吉
大工 出 納 豊 喜 外 四 名
左官棟梁 田 中 爲 夫 外 二 名

(筆者住所南海郡弥生町畑木)

俳句

堅田合戦の跡を訪ふ

昭和四十六年五月十六日
佐伯史談会の堅田集会に参加して

大分探勝アルコウ会員
大分芽柳俳句会員
一 号 爲 人 末 光 孝

夢 近 川

水豊が段切の鳴く洲も見えず

堅 田 川

紫に山山うつり 鮎育つ

城 八 幡

白い翅ふろが 誇らぬ 絵馬の鶴
空堀のある径 疾し 木下間

宇山から 飛望

浮き武者が揚がし 蜂刺や新樹尖ゆ

お為半蔵の比翼塚

結ばれぬ二人に濃ゆい夏薔

玉つけぬ百合咲き添へり比翼塚

山百合や添ふ遂げざりし悲恋の碑

逝く春や心中口に説に記されて

碑も踊れ松碑今し音頭とる

激戦のあつた長池

惟治千代鶴父子の供養塔

春惜しむ主従自刃の碑と撫でて

長瀬原の千人塚

討死の血を吐き咲くや鬼ヶ刺

敵味方ここに埋もり草茂る

辰を晒して産し青嵐

鯨越といふ溪深し河鹿鳴く

天徳寺宗麟の墓

香板やもがかに梵字残るのみ

(注釈 坂市町王様)

お新りー去る五月十六日、御田御地止集会に立山先生と共に、はるか大分から参加下さいます。市野親会会への私伝の形ではありましたが、詞藻のゆたかさに、会費に即興に入れた、揚げました。お許しを。(編者)